

最新 Fintech⁺ (24)

三根 公博

マイナカードが iPhone に！

デジタル庁は6月6日に、同24日から「iPhoneマイナンバーカード」を開始予定、と発表し、同日から、マイナンバーカードの機能がiPhoneで利用できるようになった。物理的なマイナンバーカードを持ち歩かなくとも、スマホ一つで提携市区町村の住民票などを、コンビニのマルチコピー機からプリントアウトすることができるようになる。

iPhoneのWalletに公的な身分証明書が追加できるようになったのは、米国以外では日本が初めて。自身のマイナカードを用意すれば簡単に実施でき、プラスチックのマイナカードと同様に、コンビニでの住民票や印鑑登録証明の取得のほか、さまざまな行政サービスなどに利用できる。筆者は運用開始の当日、Apple Walletにマイナカードを追加した＝写真。受け取り時に設定した2種類のパスワード（数字4桁と、英数字6桁以上のもの）さえ覚えていれば、遷移する画面は多いものの、手続きは短時間で完了する。

その後、所用で東京都以外のある県を訪れた際、現地のファミリーマートでiPhoneマイナカードを使って自宅（東京都世田谷区）の住民票をマルチコピー機で取得・印刷した。印刷された住民票を、PrintSmashアプリを使ってマルチコピー機からスキャン。PDFとしてiPhone

に保存し、最後に保存したPDFを、iPhoneからメールで送信した。これらの手続きのすべてが、iPhone上で完結する。要した時間は3分以内といったところだ。

便利なiPhoneマイナカードだが、できること・できないことを整理するとこうなる。

▽できること

- ・マイナポータルへのログインや署名



- ・マイナポータルでの各種オンライン申請
- ・コンビニでの住民票の写しや印鑑登録証明書などの各種証明書取得

▽できないこと

- ・マイナ免許証（運転免許証）としての利用
- ・iPhoneだけで実行する確定申告での利用（25年分の確定申告から対応予定）
- ・民間店舗や行政窓口での本人確認・年齢確認（今後順次拡

大予定）

iPhoneマイナカードを利用する際に注意すべき点は、「マイナ免許証」の取り扱いだろう。

iPhoneの健康保険証（マイナ保険証）としての利用は9月から順次スタートするが、マイナ免許証はそうではない。運転の際には従来どおり、運転免許証、またはマイナカードに登録したマイナ免許証を所持しておく必要がある。

筆者は05年から「（当時の）住基カードのNFCチップを携帯に搭載すれば、いろんな手続きが一変する」と通信キャリアと対して言い続けていたが、それから20年が経ちようやく実現された格好だ。

- ・社会にニーズがある話
- ・理屈で考えて、正しい・筋が通っている話
- ・現在の技術でできる話
- ・経済的にも破綻しない話

は、いずれ必ず実現される。公的部門が最も時間がかかるが、20年後に実現できた。フォワード・ルッキングの姿勢は大切なのだな、と再確認した。

いろいろと批判も多い中、日本のDXも確実に前進している。iPhoneをお持ちの皆さん、せっかくなのでマイナカードをWalletに入れよう。アメリカを除くと、日本でしかない特権。使わないのはもったいなさすぎる。